

熊本発！ ソーシャルビジネス始動 スモールビジネス×フェアな関係が社会を変える

オイスカは2021年からの10カ年計画の柱の一つとして、BBS (Business based Solution / ビジネスセクターとのパートナーシップとソーシャルビジネスの推進) を掲げています。その好事例ともいえるのが熊本×モンゴルプロジェクト(暮らしのの仕事・ママ応援)。熊本の女性たちとオイスカモンゴル総局とが連携して昨年度スタートしたソーシャルビジネスについてご紹介します。



女性の支援を目指して

熊本×モンゴルプロジェクト(以下、プロジェクト)の始まりは、オイスカ熊本推進協議会の石原靖也副会長が、オイスカモンゴルとの交流を目的に2018年5月に現地を訪ねたことに遡ります。雄大な自然の素晴らしさがある一方で、首都ウランバートルに人口が集中することで、さまざまな課題に直面する人々がいることを知った石原副会長は、「都市部の女性の社会的立場の向上と収入増」をテーマにした取り組みを構想。オイスカ・インターナショナル会員からの出資も受け、モンゴルのさまざまな産品を日本で販売しようと試みまし

が、輸入許可や検疫に関する課題に阻まれ、進捗が見られないままコロナ禍に入り、プロジェクトは行き詰まりを見せていました。

女性の力で前進

そこに助け舟を出したのが(財)くまもと未来創造基金の宮原美智子理事。地域の課題解決に取り組んできた同財団の活動の一つ、子育て中の女性サポートの取り組みで関わりがあった女性グループと、ハンドメイドに携わるモンゴルの女性グループとをつないだフェアトレードの形で進めていくことが提案され、消費者と生産者が同じ立場でビジネスを進めるプロジェクトが、5カ年計画で動き出しました。

初年度となった21年は、プロジェクトのホームページやフェイスブックでの情報発信と合わせ、オンラインで熊本とモンゴルの女性たちとの交流を実施。商品開発に向けた意見交換を行い、フェルト製品などのテスト販売も行われるなど、プロジェクトは計画通り進捗しました。

女性たちの活躍を目にした石原副会長は、「ビジネスを経験したという自信がある男の感覚は全く役に立たない。この小さなビジネスには、国や立場を超えた『交流』というフェアな関係があり、儲けや損といった金勘定で動く従来のビジネスでは決してあり得ない『持続性』がある」と述べる。同時に、こうした交流

熊本×モンゴルプロジェクト

HPはこちら



「熊本とモンゴルの女性たちが自分らしく輝き暮らせる社会」を目指し、以下の②つのプログラムを実施



① オンライン交流

目的
両国間の相互交流/国境をこえたコミュニティづくり

内容
モンゴルと熊本をつないださまざまなオンラインイベントの開催

② ビジネスマッチング

目的
モンゴルの女性の生活水準向上と両国の女性事業者支援

内容
熊本とモンゴルの女性同士のコラボレーションによる商品づくり/両国で販路をつくり、持続可能な形で運営を継続

型のビジネスで社会が変わると感じているといいます。

モンゴルでの成果

プロジェクトは軌道に乗り、21年9月から22年2月までの売り上げは92万円に達しました。販売価格の4割がモンゴルの生産者に還元され、2割は現地でコーディネートを担当するオイスカモンゴルの活動支援に充てられます。また、モンゴルの女性や障害者の就労・起業をサポートするための「女性応援基金」を立ち上げ、売り上げの1割が基金に積み立てられます。

オイスカモンゴルのニンジ



熊本とモンゴルのコラボレーションで生まれたプロジェクトのオリジナル商品例

ン・ギリヤセド事務局長によると、コロナ禍でモンゴルへの観光客は3年間停滞しており、以前は観光客向けに販路があつた生産者たちにとって、今回のプロジェクトは新たな販路が開けたという点でも、とても価値のある事業となつたといいます。また、消費者と直接オンラインで交流できる商品が喜ばれていると実感できることで、「明るく前向きな気持ちで仕事に取り組めるようになった」という声も生産者から寄せられています。

現地の人材が強みになる

プロジェクトを担当する宮原さんは、「着実な活動ができているのは、オイスカの活動による地道な種まきが、花開いているから」と話し、コーディネートを担当するオイスカモンゴルのニンジン事務局長や訪日研修生OBでスタッフのトゥメンデンベルルについて「信頼できる現地メンバーがいることが一番の強み」と強調。打ち合わせや相談が日本語でできることが、スムーズな活動につながっているといます。

プロジェクトを統括する丸

本文紀熊本推進協議会会長は、オイスカを持つ、訪日研修生OBをはじめとする人材や各国に広がるネットワークを活かすことで実現した今回のプロジェクトを「オイスカ版ソーシャルビジネスモデル」と表現しています。小規模でもフェアな関係のソーシャルビジネスを推進することが、よりよい未来の実現につながります。

新たな広がりも

宮原さんによると、在住のモンゴル人の方からの注文や、「モンゴルのためのプロジェクトをありがとう」などのお礼の言葉も届いているそうです。また、製品の購入を通じて新たな動きも出ているとのこと。その一つが、SDGsや環境教育を推進する熊本市内の幼稚園の取り組みです。モンゴルの親子との交流イベント開催や園内で使う製品開発などの相談があり、プロジェクトで検討を進めているところだそうです。

モンゴルの製品の素晴らしさやプロジェクトに共感した方からも、新しい取り組みの輪が広がっています。



MONGOLIA



訪日研修後のプロジェクトが活かされました！

2011～12年に四国研修センターで学び、帰国後は、高松西ロータリークラブの支援を受けて、ウランバートル市内の女性を対象としたフェルトスリッパづくりの講習会を定期的に行いました。そうした経験も今回のプロジェクトの土台となりました。

オイスカモンゴルスタッフ トゥブデンドルジ・トゥメンデンベルル

グループ内の絆も強まりました！

グループ内で常にコミュニケーションをとりながら、日本の方に喜んでもらえる、よい品質のものを作る努力を続けてきました。その結果、お互いに助け合う気持ちも強まりました。今後は若い世代にも技術を伝え、この取り組みを継承していきたいと考えています。



生産者グループリーダー チュルンチメグ・バルドルジ



JAPAN -KUMAMOTO-



コロナ終息後は必ず訪問します！

「国境を越え信頼できるコミュニティ」による、小さいけれど信頼関係で作る経済循環を目指しています。みんながハッピーになる価格設定と「女性の就労支援」というSDGsの視点も含んでいます。信頼できるモンゴルの仲間から送ってもらうオーガニックな品物、これからも楽しみです。

プロジェクト担当 宮原 美智子

フェルト製品愛用しています！

ハンドメイドのスリッパと靴下、ポトルケースを愛用しています。手作りの丁寧さと品質の高さに驚きました。プロジェクトにスタッフとして参加し、モンゴルの現状を知ることから始まりました。両国の女性や子どもたちが笑顔になる活動を、現地スタッフの方と一緒にできることを光栄に思っています。



プロジェクト担当 田代 美和